

令和3年度 地域ケアケース会議(地域の実態把握)

地域の実態把握のために、事務局である高齢者あんしんセンターが地域の関係機関などに積極的に出向き、地域の高齢者に関する実態や社会資源の情報収集を行い、地域ケアケース会議に、その意見をあげていくように努めている。

内容

- ① 地域の現状の把握 ② 社会資源情報の集約及び提供

現状

- ① 地域ケアケース随時会議(地域の実態把握)

【会議を行った団体数】

テーマ 圏域	認知症	見守り	介護予防	地域連携	防災	その他 (※)
1 圏域	12	7	14	19	1	2
2 圏域	1	5	32	20	1	3
3 圏域	9	15	20	13	6	0
4 圏域	15	10	5	19	2	2
5 圏域	3	7	5	9	1	0

※その他内訳

地域の情報収集、世代間交流、居場所づくり、特殊詐欺、安全対策等

※団体の詳細については、別紙参照

- ② 合同専門職会議

高齢者あんしんセンターでは、職種にこだわることなく、それぞれの専門性を活かした視点から「課題の共有」、「職種間の意思疎通」、「チームアプローチの実践」を目的に各テーマを設定し、合同専門職会議を開催している。

「地域支援ネットワークづくり会議」では、地域の様々な課題に対し地域や各関係機関と連携を図りながら、その解決を目指す取り組みを行っている。

「介護予防推進会議」では、自立支援に向けて高齢者・ケアマネジャー・サービス提供事業者の意識を高める取り組みを行っている。

「ケアマネジャー連携会議」では、ケアマネジャーとのより深い連携を目指した取り組みを行っている。

関係機関	会議内容(※一部抜粋)
社会福祉協議会(生活支援コーディネーター)	※令和3年11月24日(水)意見交換会実施。 コロナ禍における地域の通いの場、「やお地域資源MAP」についての状況を把握するため、生活支援コーディネーターと意見交換会を実施。地域活動の現状やコロナ禍におけるモニタリング対応について意見交換を行った。またコロナ禍における「やお地域資源MAP」の情報更新の課題と啓発について検討を行った。
社会福祉協議会(地域福祉)	※令和4年1月12日(水)意見交換実施 地域組織と連携し、コロナ禍でも高齢者が活用出来る新しい見守りネットワーク体制

グループ)	の基盤づくりを行う為、地域組織とつながりの深い社会福祉協議会と意見交換会を実施。意見交換会では地域ネットワークとして「たかたかの会」の活動報告を共有し、インフォーマルのネットワークづくりにおける必要な視点を共有した。
居宅介護支援事業所	※令和4年1月17日(月)研修会実施。 ケアマネジャーの「自立支援」の意識を高め、学びを深められるよう、ケアマネジャーを対象とした介護予防ケアマネジメント研修の企画・オンライン開催を実施。研修会では「自立支援のためのケアマネジメント」をテーマに由利 禄巳氏(一般社団法人大阪府作業療法士会)による講義から利用者自身で行う自立支援の大切さを再確認し、利用者とケアマネジャーが自立支援の共有が進む事を目指した。

③ 高齢者虐待ケース全体評価会議(レビュー会議)

高齢者虐待情報を一元的に管理し、地域的な傾向の把握、ケースに共通する課題や地域課題の抽出、虐待防止に向けた地域づくりや体制を整えることを目指し、「レビュー会議」を開催している。

回数	レビュー会議を通して抽出された課題等
集合開催 20回 (各圏域にて 4回開催)	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患やアルコール問題に関連する虐待も増えている。 虐待ケースにおいては養護者にあたる娘や息子が精神疾患を抱えている事が多く、精神疾患の疑いがあるにもかかわらず、医療に繋がっていないケースも多い。 精神疾患の子からの虐待ケースでは親子関係において、お互いが依存する共依存のケースもあり、分離が必要な場合でも被虐待者が養護者から離れることが出来ない事がある。 高齢者虐待だけでなく、8050問題や精神疾患、家族間のトラブル等、世帯全体で課題を抱えた困難なケースが増えている。養護者支援も複雑化しており、専門機関とのさらなる連携強化と家族問題や精神疾患が疑われる人への支援機関の調整が必要である。 ケアマネジャーの虐待の判断について個人差があり、継続した虐待啓発の取り組みが必要である。また若年層(ヤングケアラー)への啓発も課題である。 虐待対応においてケアマネジャーが抱え込んでしまう状況や一事業所で虐待対応を解決する事案もある。より正確な実態把握を目指す為、ケアマネジャーとの関係構築を継続し、情報共有が出来る関係づくりの取り組みが必要である。

まとめ

高齢者あんしんセンターが地域に出向き、関係機関等と意見交換を行うことで、地域の課題の把握に努めている。地域での会議内容で多いものは「見守り」「介護予防」「地域連携」といったテーマが多く、地域の関心の高さがみられた。また、高齢者虐待の傾向からは虐待発生の背景には、孤立や貧困等、複合的な多くの問題を抱えるケースが多くみられる。

このような課題から、高齢者の支援にあたっては、高齢者あんしんセンターと関係機関との、より充実した連携が必要であると考え、地域ケア会議の活発化、医療と介護の連携のさらなる連携、認知症支援にかかる関係機関との連携等を通じ、高齢者をとりまく関係機関と連動した取り組みを検討していく。